

飲食店に「野菜ロッカー」

収益源増やし、産地も支援

IT(情報技術)ベンチャーのファームフェス(鹿児島市)は、野菜を無人販売できる冷蔵ロッカーを飲食店などに展開する。利用者はロッカーから野菜や食材キットを受け取り、専用アプリでキャッシュレス決済できる。新型コロナウイルス感染症拡大で非接触のニーズが高まるなか、打撃を受けている飲食店の収入源を増やし、生産地の支援にもつなげる。

ファームフェスは東京・目黒のカフェレストランで、野菜の無人販売サービス「LOCKAL(ロツカル)」の実証実験を始めた。店内にロッカーを設置し、山梨県北杜市の有機野菜を扱い、客層や売れ行きを検証。本格展開につなげる。

利用者は専用のスマホアプリを通じて商品を購入入できる。まず買いたい物や数量を打ち込み、アプリで事前決済する。決済完了後に送られるQRコードをロッカーに据え付けた液晶画面にかざすと、扉が開き商品が受け取れる仕組みだ。

ファームフェス、無人販売用



今秋にも本格展開する「野菜ロッカー」のイメージ



ロツカルで扱う野菜。有機で珍しいものをそろえていく

ロッカーの設置料は無料の方向で検討しており、今秋にも都内5カ所の飲食店に展開する。店舗側はファームフェスと連携する農家などから仕入れた野菜をロッカーに詰めて販売。ファームフェスは売り上げの10%を手数料として受け取る。

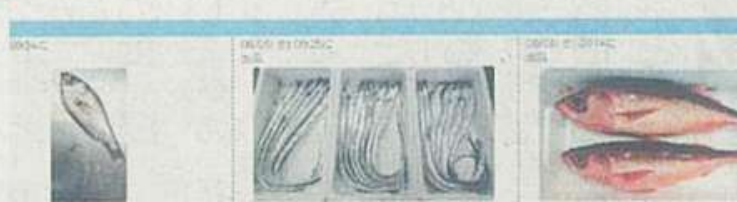
店が野菜を仕入れて販売するため、在庫リスクは店側が負うが、余った野菜は食材として使用する。逆に食材として使用しきれなかった野菜を売ることにも可能になる。生鮮品だけでなく、自店メニューのミールキットなども無人販売できる。

ファームフェスは農家と企業を結びつける「農場シェアリング」を事業の柱としている。ロツカルでは、全国200以上の生産者とのネットワークを生かす。多彩な品目を用意できるほか、アプリを通じて生産者や野菜を紹介し、他のサービスとの違いも打ち出している。

コロナ危機を受け、生鮮品の無人販売に参入する企業は増えている。料理レシピサイトのクックパッドは、生鮮食品のネットスーパー「クックパ

漁業者支援で水産物仲介サイト

静岡県伊東市に本社機能を置くIT(情報技術)関連のスタートアップ企業、咲弥(東京・千代田)が、新型コロナウイルス感染症を受けた漁業者の販路を



ウオウテ

「ドマート」の宅配ボックスを地下鉄駅構内などに展開。通勤時に生鮮食品を受け取りやすくし、共働きや単身世帯の利用者を開拓している。